



令和6年10月24日(木) 10:45～16:00

Zoomによるオンライン形式で、参加者の職場において開催しました。

【目的】

コーディネーター：北方生物圏フィールド科学センター，
福井 信一，佐藤 浩幸，伊藤 欣也，増茂 弘規

昨今のICT技術の進展により、AI技術の裏側を知らなくても、機械学習を実応用手段として、各位の職務に取り込める環境は整いつつあります。ChatGPTなどの生成系AIもその一例ですが、対話式のブラックボックスツールともいえ、まだ汎用性のあるツールとは言いきれません。本企画では、対象物に対し、より直接的に機械学習を適用できるディープラーニングツール（Neural Network Console（Sony社製）を使用。）を取り上げ、ハンズオン課題として、ツールを使用した画像識別によるイチゴ病害虫被害診断を試みる。

【実習】

講師：ソニーネットワークコミュニケーションズ
株式会社 松原 雅信 氏

二値分類について、プログラミング経験の有無によらず画像認識問題を解決するためのディープラーニングツールのうち、Neural Network Consoleを使用したハンズオン形式の研修をしました。また、ハンズオン研修後、今回の企画テーマに関連した、できるだけ幅広い内容で意見交換を行い、技術支援や職務応用等の可能性を議論しました。

本技術交流会に参加した受講者からは「内容についていくのは大変だったが、AIの可能性について考えさせられた」、「ディープラーニングツールを使用すると、プログラミング言語で直接記載するよりも視覚的な理解がしやすい」等の意見があり、本事業の目的に寄与できたことがうかがえました。

本研修は北大時報令和6年12月号（全学ニュースP19）に掲載されました。

参加者：受講者13名（コーディネーターを除く）

CoSMOSでは、技術職員が自ら企画、運営、講師を担い、各自の持つスキルの継承・伝達・強化を図るとともに、異分野交流による技術職員同士の全学的な人材交流・技術情報交流・技術強化を目的とした技術交流会企画コーディネーターを募集しています。詳細はHPでご確認ください。

企画フォローアップはマルチスキル人材育成プロジェクト担当が行っております。
CoSMOS HP <https://cosmos.gfc.hokudai.ac.jp/>

共催：北海道大学スマート農業教育拠点
<https://smart012.wixsite.com/website>



モデル設計の違いで画像識別の精度が変わる旨の説明



情報交換会の様子



午前中の講義の様子

研究支援人材育成プログラム実施専門部会 マルチスキル人材育成プロジェクト

実施専門部会長：岡 征子 創成研究機構
担当：高塚 徹 低温科学研究所
委員：佐藤 浩幸 北方生物圏フィールド科学センター
委員：遠藤 礼暁 電子科学研究所
委員：佐藤 陽亮 低温科学研究所